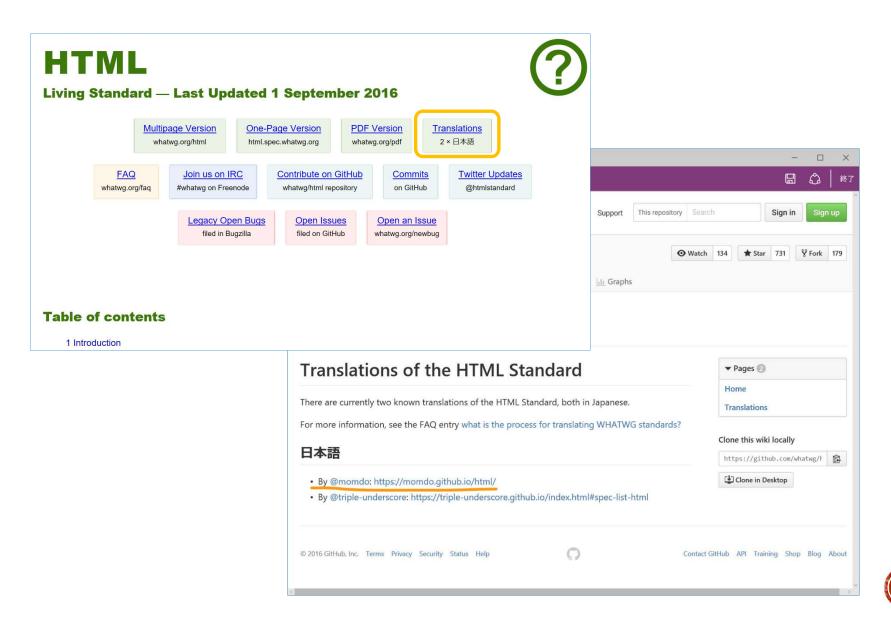
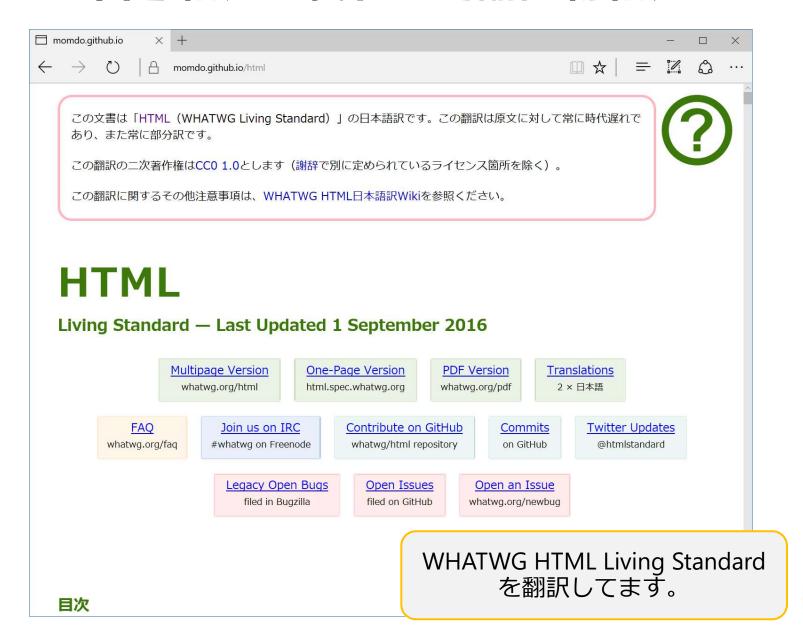
HTMLスナップショット 2016



自己紹介に代わって翻訳物紹介



自己紹介に代わって翻訳物紹介



GitHubに置いてある翻訳物



W3C仕様日本語訳置き場Wiki



こんな活動もやってます



2つのHTMLに至った簡単な歴史

2016年現在、W3C HTMLとWHATWG HTMLの2つのHTML仕様が存在する。 ここまでに至る経緯を簡単におさらいする。

- 1998年 HTML4仕様勧告。翌年HTML4.01仕様勧告。ここでHTMLの進化が 一旦止まる。
- 2000年 DOM2 シリーズ仕様勧告(DOM 2 HTML除く)。
- 2003年 XForms 1.0仕様勧告。HTMLの拡張可能性を探る動きが始まる。
- 2004年 OperaとMozillaがW3CでHTMLの開発を再開させるべきという提案を するも、却下される。この後、Apple、Mozilla、Operaの3社でWHATWG設立。 lan Hicksonが現在のHTML Standardの元となる仕様の開発に着手。
- 2006年 W3CがHTML5に興味を示す(Tim Berners-Leeが自身のBlogで言及)。
- 2007年 WHATWGと協力体制を取る新たなW3Cのワーキンググループを設立。
- 2012年 勧告を発行したいW3Cと開発を継続し続けたいWHATWGが分裂。
 (『運営メモ: WHATWG の HTML Living Standard と W3C の HTML5 仕様との関係についての最新情報』)
- 2014年 W3C HTML 5勧告が発行。

W3C HTML5 日本語訳 — 1.4 歴史 より抜粋・改変 https://momdo.github.io/html5/introduction.html#history-0

HTML5.0仕様以降のW3C側の動き

- 旧HTML Working Groupの打ち出していたPlan 2014どおりにHTML 5.0勧告こ そ発行されたが、このとおりにはHTML 5.1の策定は進まなかった(皮肉なことに、6月時点ではHTML 5.1の勧告は9月に発行予定であって、その意味では 当時の計画通りか?)。
- HTML5.0仕様の勧告の後、エラッタ(正誤表)を出してHTML 5.0.1という話もあったがいつの間にか無かったことに。
- HTML5.0のEditorであったRobin BerjonによってHTML breakupという分割して 仕様を策定する案もあったが、彼のEditor降板とともにこれも無くなった。
- TPAC 2015の前にWeb Platform Working Groupが立ち上がり、W3C HTMLはこのWGが開発を担当することに。
- 2016年1月にpublic-html@w3.orgへ" HTML plan"というタイトルで、Web Platform WG co-chairのLéonie Watsonから、GitHubでWPWGとしての新生 HTML 5.1仕様の策定がアナウンスがされた。

WHATWG HTMLのEdtiorであるAnne van Kesterenが 自身のブログでこのHTML planに反応した

Anneのエントリー(抜粋訳)

66

もう何回目か忘れたが、HTML Standardからまたフォークがされたみたいだ。いつもの如く、悲惨なものになっている。問題点を挙げてみよう:

- Gitの履歴を全消去した(訳注:今はhtml-oldに一応ログが復活している)
- HTML 5.1を作成する方法を文書にしていない
- HTMLコミュニティーと相談してないし、
- フォーク元とも相談してないし、
- W3C Web Platform Working Groupでも相談してない
- フォーク元の謝辞セクションを消して、
- 著作権とライセンス情報も消してしまったあげくにW3Cライセンスを付与している(訳注:今は謝辞と著作権表示は復活している) (中略)

緑のスタイルシートをもつ標準こそが、実装者と開発者によって参照されるべき最新の仕様であり、他の仕様から参照されるべきだと言いたい。 (中略)

欠陥フォークは答えではない。

W3C forks HTML yet again 21 January 2016 – Anne's Blog https://annevankesteren.nl/2016/01/film-at-11 より、発表者による試訳(抜粋)

その後のWPWGの動き

- 2016年4月8日付けで"Working on HTML5.1"というタイトルでLéonieが W3C Blogに投稿
 - この投稿でHTML 5.1を2016年9月に勧告にするというWPWGとして の周知がなされた、と思う
- 同年6月2日付けで"Finishing HTML5.1 ... and starting HTML 5.2"というタイトルでCharles McCathie Nevile (WPWG co-chair)がW3C Blogに投稿
 - 事実上HTML 5.1の機能凍結(新しいものをこれ以上追加しないこと)が宣言される
 - 目論見通り、同月21日付けに勧告候補になった
- 4月に発表されたスケジュールから逆算すると、8月にはHTML 5.1は勧告 案になってなければならないはずだが、未だ勧告案は発行されていない。
 - 昨日(!)ようやくCall for consensusが出され、月内に勧告案か。
 - TPAC 2016 (今年は9月19日~23日の日程で開催) より前にHTML 5.1 が勧告となる可能性は皆無である。
- なお、HTML 5.2の最初の公開草案は8月18日付けで発行された

WPWGの予定

新Charter(憲章) 案(10月1日から開始予定)に、HTMLのスケジュールが記載されている

66

- HTML 5.2 Recommendation in Q4 2017
- HTML 5.3 First Public Working Draft in Q3 2017

[PROPOSED] Web Platform Working Group Charter 2016-8 http://w3c.github.io/charter-html/group-charter.html

HTML 5.1が2016年9月に勧告になる前提で、 1年に一度のペースでW3C HTMLを更新していく体制でいる…らしい。 (概ねCharterのスケジュールはアテにならないと個人的には考えるが)

余談として、現CharterにあったURLは削除され(勝手に中心人物だと認識していたSam Rubyも興味を失ったか)、Microdataが加わっている(w3c/htmlのissueでやりとりがあった記憶)

HTMLを取り巻くもう一つの動き

ウェブから若干離れるが、EPUB(電子書籍のファーマット)は、HTML+CSSがコア技術として採用されている。EPUB 3.0はISO/IEC TS 30135になっている。EPUB 3.1 or later ?でTS(技術仕様)ではないIS(国際標準)を目指してる。

66

10.2 認められている参照文書

原則として、規定としての参照文書は、ISOやIECにより公開されている文書でなければならない。適切なISOやIEC文書がない場合、下記の条件が満たされる限り、他の組織により公開されている文書を参照してもよい。

a) 参照文書は、幅広く受け入れられ、権威のある位置付けであるとして委員会により認識される。

ISO/IEC 専門業務用指針 第2部 ISO及びIEC文書の構成及び作成に関する原則と規則 第7版 http://www.jsa.or.jp/wp-content/uploads/isoiec_directives2_7th.pdf

ISO/IECのこの規則により、W3C HTMLを参照せざるを得ないだろう (HTML Standardは無理そう)



W3CでEPUBを開発する日が来る?

66

World Wide Web Consortium(W3C)とInternational Digital Publishing Forum (IDPF) は10日、米国シカゴで開催中の「Book Expo America 2016」と併催されている電子書籍カンファレンス「2016 IDPF DigiCon」で、2017年1月を目指して両組織を統合する計画を発表した。

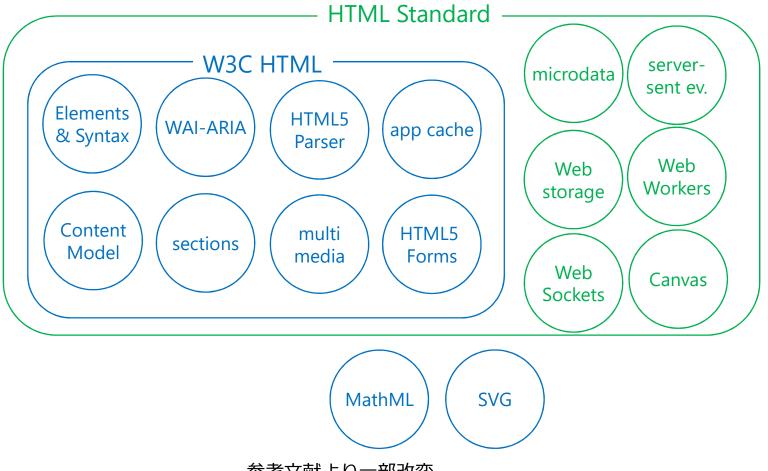
W3C、EPUBの開発組織IDPFとの統合を検討 - INTERNET Watch http://internet.watch.impress.co.jp/docs/news/756780.html

2016年5月のニュースであるが、その後のニュースはよくわからない。 現状DPUB IGというグループがあるが、合併話が成立すれば新たにWGが設立 され、より緊密にW3Cの各WG・仕様と連携が模索されるかもしれない。

そのときのW3C HTMLの立ち位置は...?

2つのHTMLはどう違うのか

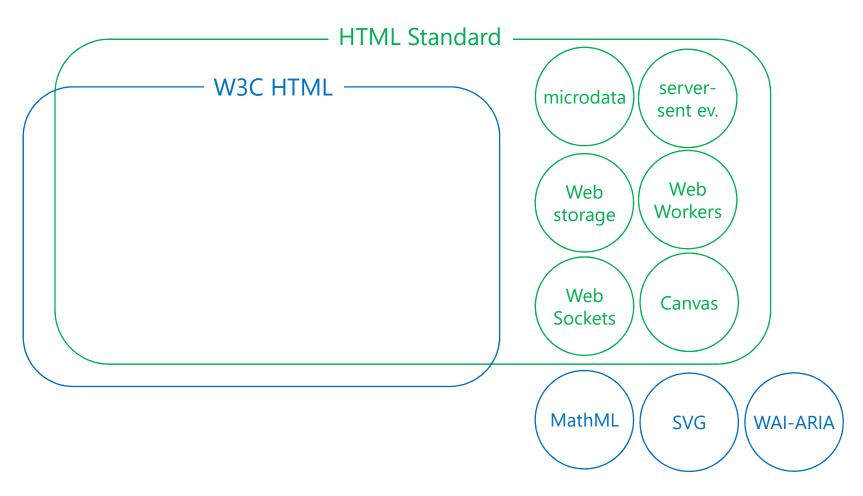
よくW3C HTMLはHTML Standardの部分集合かのように説明されることが あるが...



参考文献より一部改変

http://www.slideshare.net/dynamis/the-new-norm-of-the-web

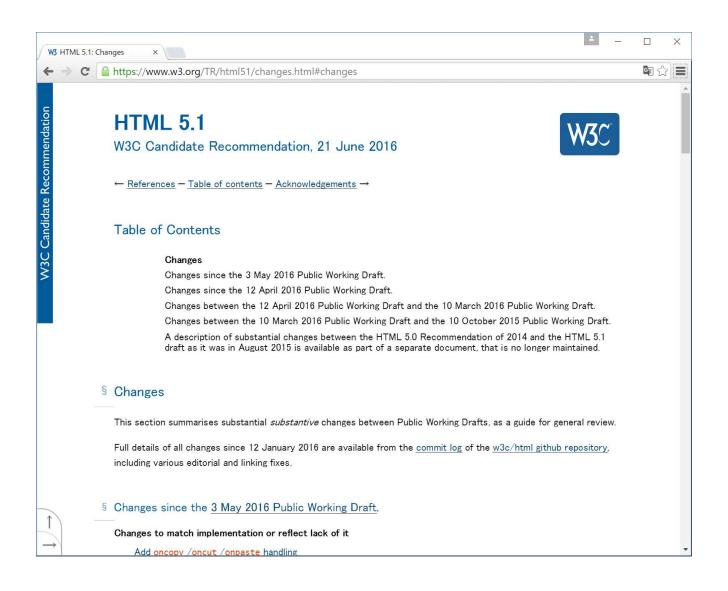
2つのHTMLはどう違うのか



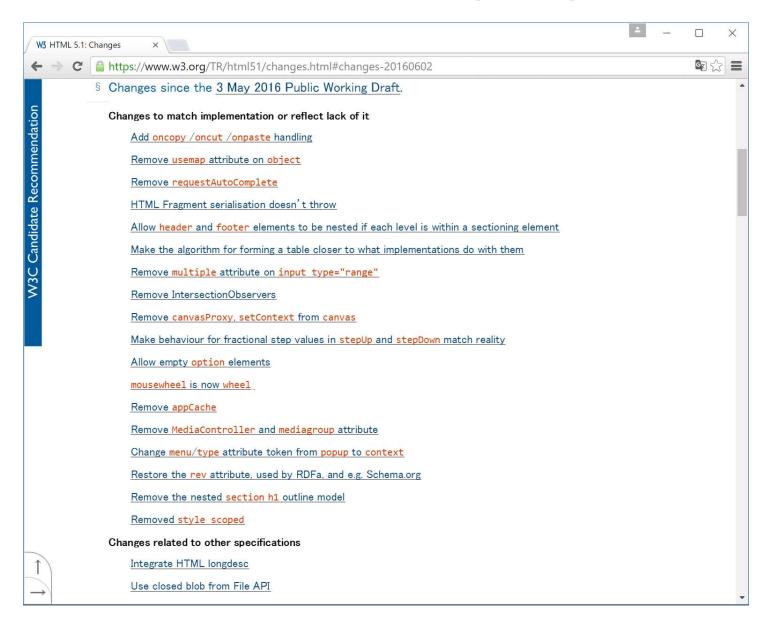
実際にはこういうイメージとなる。すなわち、W3C HTMLは実態として HTML Standardの部分集合ではない。

diffを眺める

HTML 5.1にはChanges(変更点)のセクションがある







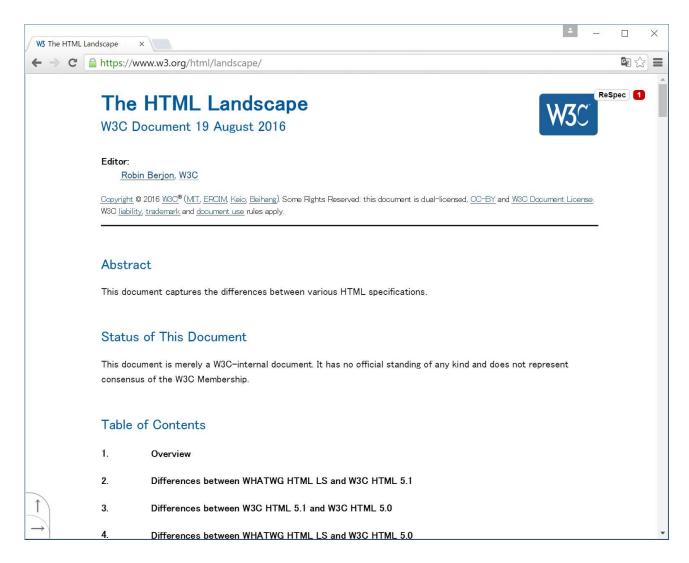
66

A description of substantial changes between the HTML 5.0 Recommendation of 2014 and the HTML 5.1 draft as it was in August 2015 is available as part of a separate document, that is no longer maintained.

Changes - HTML5.1 https://www.w3.org/TR/html51/changes.html#changes

この中で最も古い時期の変更については、別文書(HTML Landscape)を 参照することになる(ただしメンテナンスされていない)

仕様自身の変更点を説明するのに、なぜか仕様自身で完結しないという。



5.1と5.0の差分を見るのは、"3. Differences between W3C HTML 5.1 and W3C HTML 5.0"というセクションにある項目を見ていけばよい。

66

2. Differences between WHATWG HTML LS and W3C HTML 5.1

See the section 1.12 About this document in HTML 5.1.

The HTML Landscape https://www.w3.org/html/landscape/

しかし、LSと5.1の差については、「HTML 5.1の1.12節を見よ」とあるが、 リンクが http://www.w3.org/TR/html51/introduction.html#landscape と現在のHTML 5.1にはないものに張られている。

-> https://www.w3.org/TR/2015/WD-html51-20151008/introduction.html#landscape
が本来見に行くべきリソース(事情を知らないと見に行けないつらみ)。

5.1とLSとの差異 (コメント編)

```
<!-- 一般に、HTMLコメントはこのように書きますが -->
<!----->
<!-- ↑のようなコメントを「誤って」書いたことがあるという人も
中にはいるのではいるのではないでしょうか。 -->
```

正確なコメントの書き方は横に置いておいて、コメントは、 <!--で開始して 間に2つ以上の-を含まずに -->で終了する というのがHTML5.0のSyntaxだったが、

HTML Living Standardでは間のハイフンに関する制約が無くなった(5.1は5.0と同じ)

5.1とLSとの差異 (要素編)

element	W3C HTML 5.1	HTML LS
<slot></slot>	×	0
<hgroup></hgroup>	×	\bigcirc
<rb></rb>	\bigcirc	×
<rtc></rtc>	\bigcirc	×
<dialog></dialog>	○(at-risk扱い/ HTML5には存在)	0
<keygen/>	○ (at-risk扱い)	\bigcirc
<menu></menu>	○ (at-risk扱い)	\circ
<menuitem/>	○(at-risk扱い)	\bigcirc

勧告候補段階なので、at-risk扱いの実装されていない機能が削除される可能性はある。

また、<main>の定義や、<dl>の説明にも差異がある (発表者の記憶によるもので、他にもあるかもしれない)



1. <slot>



HTML Standardのツイート https://twitter.com/htmlstandard/status/722787013632618496



2. <hgroup>

2013年4月のHTML WGの議決によりW3C HTML削除 その代わりに、Subheadings, subtitles, alternative titles and taglinesのセクションが存在すると認識(HTML 5.1では4.13.1.節)

HTML 5.1からも削除されており、今のところ復活の見込みは一切なし

MozillaのBugzilla Bug 702594にSteve FaulknerとHixieとの激しい応酬(!)の痕跡があるので、興味のある人は覗いてみるといいかも(?)

66

スティーブ、めちゃめちゃ失礼やな。 ここはHTMLワーキンググループやあらへん。(Hixie)

66

イアン、威張るのやめーや💢 (Steve)

Bug 702594 - map HTML <hgroup> element to accessibility APIs https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=702594#c33 と34 より抜粋、意訳。

3. <rb>/<rtc>

whatwg/html/pull/101 でパーサーの議論がされていた (他にもW3CのBugzillaだったり、MozillaのBugzillaだったりと、仕様と 実装の両面で検討されたと認識。)

仕様としては、もともとDavid BaronがW3C HTML Ruby Extensionを書いて、これをそのままW3C HTML5仕様にねじ込んだものと理解。

66

dbaron: HTML Ruby Extension書いてみた。

Hixie: HTML Standardこそ正義。でっかい複雑なものはいらんのです。

r12a: Ruby Extensionがベスト。Hixieは黙ってて。

Bug 33339 - (ruby) HTML5 < ruby> support https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=33339#c106 以降より抜粋、意訳。

- WebKit/Blinkの実装は見込めない気がする(?)ので、カギを握っているのはEdgeチームか?(個人的な印象)
- 個人的にはJLreqさえ実現できればそれでいいと思う

4. <main>

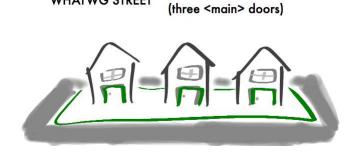
66

著者は、文書内に複数のmain要素を含めてはならない

4.4.14 main要素 - HTML5日本語訳 http://momdo.github.io/html5/Overview.html

HTML 5.0では1つの文書に1回しか<main>要素を使用してはいけないという文言があったが、5.1にはその文言はない。(LSではそのような制約は元々ない) →しかし、5.1は依然として1回のみの例示しかない模様





画像出典:

WHATWG STREET

4. <main> (続き)

Contexts in which this element can be used (この要素を使用できるコンテキスト) の比較。上からHTML LS、5.0、5.1。



Where flow content is expected. (HTML LS)

Where flow content is expected, but with no article, aside, footer, header or nav element ancestors. (W3C HTML 5.0)

Where flow content is expected. (W3C HTML 5.1)

https://html.spec.whatwg.org/multipage/semantics.html#the-main-element https://www.w3.org/TR/html5/grouping-content.html#the-main-element https://www.w3.org/TR/html51/grouping-content.html#the-main-element

HTML 5.1は5.0と同じ文言なのが正しい(LSと同じだと5.1の本文と整合がとれない)が、LSと同じ文言になってしまっている。(このようなことが至るところで発生していると推測)

この部分の記述は同じだが、本文で5.1とLSとで微妙に異なる。



5. <dl>

66

The dl element represents a description list of zero or more term-description groups.

4.4.8. The dl element – HTML 5.1 http://www.w3.org/TR/html51/grouping-content.html#the-dl-element

66

The dl element represents an association list consisting of zero or more namevalue groups (a description list).

4.4.8. The dl element – HTML Standard https://html.spec.whatwg.org/multipage/semantics.html#the-dl-element

HTML 5.1ではdl要素の説明が変更されている。これは説明がわかりにくいという理由で変更されたが、「0個以上のterm-descriptionグループのdescription list」という説明も筋悪に思える。

属性編

attribute	element	W3C HTML 5.1	HTML LS
allowusermedia	iframe	×	
as	link	×	
border	table		×
is	HTML elements	×	
longdesc	img		×
manifest	html	×	
ping	a; area	×	
playsinline	video	×	
	a; area; iframe;		
referrerpolicy	img; link	×	
name	slot	×	
itemid	HTML elements	×	
itemprop	HTML elements	×	
itemref	HTML elements	×	
itemscope	HTML elements	×	
itemtype	HTML elements	×	

at-risk扱い:inputmode, contextmenu, <input type="""> datetime /datetime-local



1. table border

66

border属性は、tableが要素レイアウト目的で使用されていないことを明示的に示すためにtable要素で指定されてもよい。指定された場合、属性の値は空文字列または値を"1"のいずれかにしなければならない。属性は、ボーダーがテーブルのセルの周囲に描画されるべきであることを示すものとして、特定のユーザーエージェントによって使用される。

4.9.1 table要素 – HTML 5日本語訳 https://momdo.github.io/html5/tabular-data.html#attr-table-border

HTML 5.1もHTML 5.0とほぼ同一の文言。 LSでは属性そのものが廃止されている。

2. img longdesc

- HTML 4.0でWAI (Web Accessibility Initiative)からの要望があったらしい。 (いにしえのfj.net.infosystems.www.authoringのログによる)
- 闇に葬り去られたはず…だったが、いつの間にかHTML5 Image Description Extension (longdesc) の名でW3C勧告として復活(経緯は正確に把握してない)。
- 現在のHTML 5.1 CRでは、5月の草案で本体仕様に取り込まれたが、 結局切り離される(HTML 5.0と同じ拡張仕様扱いになる)模様。

参考: WG Decision on referencing the Image Description (longdesc) extension https://lists.w3.org/Archives/Public/public-html/2016Aug/0013.html

3. referrerpolicy

- 文字通り、リファラーを制御する属性。
- という格好でリファラーを送信しないようにするというのが2009年にChromeではじめて実装(HTML 5.0でも規定)。
- その後<meta name="referrer">という書き方が提案。仕様としては当初Wikiに登録されるだけであったようだが、W3CでReferrer Policyにて標準化が進行中。ここ数か月でLSに取り込まれている(ので、HTML 5.1にはない)。

66

新たに a 要素、 img 要素などに referrerpolicy 属性が追加され、 <meta name=referrer> と同様の指定がリンクごとに行えるようになります。

Referrer を制御する

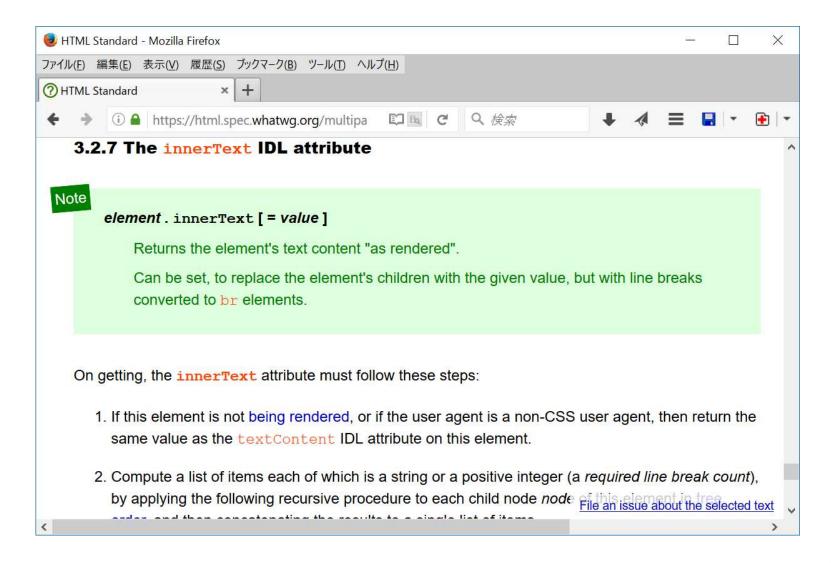
http://qiita.com/wakaba@github/items/707d72f97f2862cd8000がかなり詳しい。(このスライドもここからまとめさせてもらった)

イベントハンドラー属性編

attribute	element	W3C HTML 5.1	HTML LS
onemptied	HTML elements	×	0
onloadend	HTML elements	×	0
onrejectionhandled	body	×	0
onunhandledrejection	body	×	0

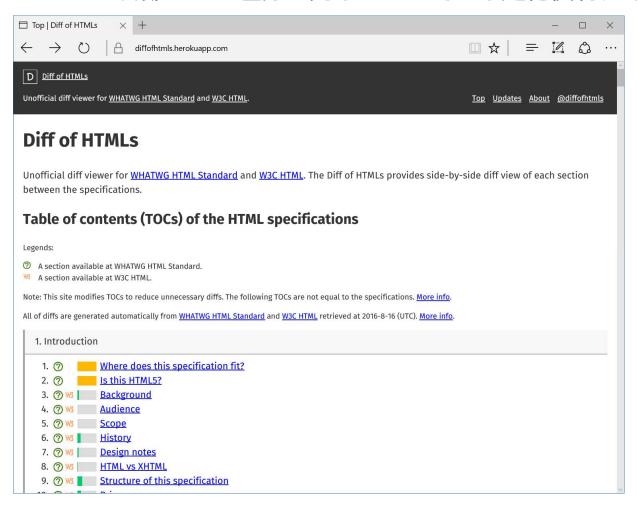
ここではどのようなイベントハンドラーかは触れないが、これらも HTML 5.2でcherry-pickされるのではないかと予想。

innerText IDL属性(!)



Diff of HTMLs

2つのHTMLの各節ごとに差分を見ることのできる超絶便利サイト



実際にDiffを流し見してみた

つらい

• diffツールが微妙にうまくdiffを取れてないけど、そもそもこのスライドを作るまでまじめに比較しようとして(略)

HTML sourceレベルでW3C HTMLが酷い。

• HTML Standardで手直しされてるものが反映されてない

WHATWG HTML Standard The wbr element	W3C HTML 5.1 The wbr element
<div class="example"></div>	<div class="example"></div>
In the following example, someone is quoted as saying something which, for effect, is written as one long word. However, to ensure that the text can be wrapped in a readable fashion, the individual words in the quote are separated using a wbr element.	In the following example, someone is quoted as saying something which, for effect, is written as one long word. However, to ensure that the text can be wrapped in a readable fashion, the individual words in the quote are separated using a wbr element.
<pre><pre><<p>So then she pointed at the tiger and screamed</pre></pre>	<pre><p>So then he pointed at the tiger and screamed</pre>
"there<wbr>is<wbr>no<wbr>way<wbr>you<wbr>are<wbr>ever<wbr>going<wbr>to<wbr>catch<wbr>me"!</p>	"there<wbr>is<wbr>no<wbr>way<wbr>you<wbr>are<wbr>ever<wbr>going<wbr>to<wbr>catch<wbr>me"!</p>
eldius	eldivs

実際にDiffを流し見してみた(続き)

HTML sourceレベルでW3C HTMLが酷い(その2)

- HTML 5.0にあったdiv/span class="impl"が実態にそぐわないので削除する (w3c/html#178) という話だったはずだけど、未だにクリーンアップできてない。至る所に存在してdiffツールで引っかかる始末。
 - ボランティアがすぐに直せる代物だけど、誰も手を出していない時点で お察し。

WHATWG HTML Standard The wbr element	W3C HTML 5.1 The wbr element	
	<div class="impl"></div>	
Any content inside wbr elements must not be considered part of the surrounding text.	Any content inside wbr elements must not be considered part of the surrounding text.	
<pre><pre class="example">var wbr = document.createElement("wbr");</pre></pre>	<pre><pre class="example">var wbr = document.createElement("wbr");</pre></pre>	
wbr.textContent = "This is wrong";	wbr.textContent = "This is wrong";	
document.body.appendChild(wbr);	document.body.appendChild(wbr);	
<pre>This element has rendering requirements involving the bidirectional algorithm.</pre>	<pre> This element has rendering requirements involving the bidirectional algorithm.</pre>	



まとめ

- 主にW3Cから見たHTMLのこれまでの歩みと、今後のW3C HTMLの展望に ついてまとめた。
 - 個人的見解として、EPUBがW3Cで開発されるかどうかに注目しつつ、 これがHTMLに与えるインパクトを注視したい。
- HTML Living StandardとW3C HTML 5.1の構文・要素・属性・ソースレベルでの比較を行った。
 - 把握しきれないほどの差異があることが示せたと思う。
 - W3C HTML 5.1の編集上の拙さの一端を示すことができたと思う。
- HTML Living Standardを基本的には参照するようにしましょう。

質問あります?



@momdo

アンダースコアに注意! 人によってはノイズです。

GitHub https://github.com/momdo

ウェブ仕様翻訳置き場。誤訳指摘歓迎。

Hatena Blog http://momdo.hatenablog.jp/

ウェブ技術関連のみを取り扱います。 月1回の更新を目指しています。

Special Thanks!

Makoto Mizukami http://makotom.org/



付録(著作権表示)

- Twitterアイコン: Twitterのブランド資産
 https://about.twitter.com/ja/company/brand-assets に基づきアイコンを使用。
- GitHubアイコン: GitHub Logos and Usage
 https://github.com/logos に基づきアイコンを使用。
- はてなブログアイコン:素材集 http://hatenacorp.jp/press/resource © Hatena Co., Ltd. CC BY-NC-SA 2.1 JPに基づきアイコンを使用。